



## いのち ～生命の安全教育を実施しました（報告）～

令和7年12月2日（火）栃木県助産師会助産師の藤岡容子様を講師としてお招きし、  
ココロ・カラダ教室～自分を大切にするための性と健康の学び～【プライベートゾーンや  
性被害の理解を深める】ため、いのちの生命の安全教育を行いました。

児童の学習目標は、以下のとおりです。

- ①いのちを大切にする考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度を身に付ける。
- ②性暴力がもたらす影響を正しく理解する。
- ③性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者（みてみぬふりをする人）にならないという強い意志をもち、行動にうつすことができる。

学年主任・養護教諭より、児童の皆さんへ以下について話をしました。

- 普段「性犯罪」や「性暴力」という言葉を耳にすることはあまりなく、遠い世界で起きていることと捉われがちだが、実際はそうではないこと。
- 性犯罪や性暴力の被害者の内訳をみると、20代以下の子供や若者が8割を超えていること。その中でも、10代以下の被害者は4割以上を占めているという事実（問題）がある。
- 被害者側だけに目を向けるのではなく、普段自分が何気なく友達にしている発言や行動が、相手や周囲の人の捉え方次第で性暴力の加害者や傍観者になり得ることも知っておいてほしい。
- 自分と相手の生命を大切に考え行動できるよう、他者とよりよい関係でいるために大切なこととはどのようなことか、授業を通して学んでもらいたい。



### 1 命の大切さ、思春期について

既習事項ではありますが、生命のはじまりと誕生、いのちの連続性、二次性徴、ホルモンによる身体的・精神的変化について学習し、新生児模型の抱っこ体験や妊婦体験をしました。



大切な命の重みを感じながら模型を抱っこ。首がぐらぐらしていてむずかしいね。



### 2 プライベートゾーンについて

プライベートゾーン「水着で隠れる部分」は、自分だけの大切なところ

- ・自分のを見せない、触らせない、写真を撮らせない
- ・他人のを見ない、触らない、写真を撮らない
- ・「見せて」とか「触らせて」と言われても、「イヤ!」と言う

### 3 性暴力について【SNS 等を通じた被害の例】

インターネットやスマートフォンは、性暴力に巻き込まれてしまうきっかけになることがある。

- ・インターネットで知り合った相手を簡単に信用しない。
- ・インターネットで知り合った相手はもちろん、交際相手や友達であっても下着姿や裸の写真を撮ったり、撮らせたり、送ったり、送らせたりしない。
- ・問題が起きたときは、一人で悩まず周囲の信頼できる大人や警察、相談窓口相談する。

### 4 自分と相手を守るもの～距離感ってなに？～

- ① お互いに手を伸ばしても届かない距離
- ② お互いに手を伸ばせば、届く距離
- ③ 教室の机を横に並べた位の距離
- ④ 肌が触れるくらいの距離



#### 心の距離感

どんなに仲のよい相手でも、いつも自分と同じ気持ちではありません。相手の気持ちを大切に、自分の気持ちも大切にしましょう。

#### 体の距離感

心地よい距離は、人によって違います。近寄られるのを嫌がる人もいます。

距離感が守られないときは、どうする？



- ・自分がいやだと感じたことは、いやだと言う
- ・相手がいやだと言ったら、距離をとる
- ・いやなときは、相手と距離を置いてみる
- ・自分の距離感が守られていないときは、信頼できる大人に相談する

すてきな関係でいるために...



- ・自分の気持ちを大切にしよう  
あなたの本当の気持ちは？
- ・相手を大切にしよう  
相手は自分の「もの」ではありません。
- ・言葉で伝えよう

お互いに、NOと言える関係をつくろう。適度な距離感をもとう。

苦痛にならない  
程度の連絡



お互い都合の良い  
ときに遊ぶ

### 5 おわりに ～性暴力が起きないようにするためには～

性暴力の被害者と加害者を生まないためには、**自分を大切に、相手も大切にして、相手とよりよい人間関係をつくっていくことがとても大事です。**

**よりよい関係をつくることは、性暴力を防ぐことにつながります。**

自分を  
大切にする

相手を  
大切にする

暴力を  
許さない



ココロ・カラダ教室を通して、自分の体を大切にすることについての理解、性暴力についての理解、自分と相手との心や体の距離感について、SNSを使うときに気を付けること、嫌なさわられ方をした場合の対応について等、振り返りシートには、「よく分かった」と回答した児童が9割以上を占めていました。

知らない人とかかわらない  
個人情報を言わない。写真をおくらない

はにかしからずだ。勇気をもって。  
「いや!」という

しゅんき フォライベート: 自分のたいじなところ  
インターネットでいふ相手簡単に信用しない。  
自分を守ることははにかしいことではない。足距離感  
を考える。自分がいやだと思ったらいやだという。  
相手がいやだと言ったら距離感をとる。どんなに仲のよ  
い友達でもいつも自分の感じない。相手をバカにして  
むしをだすといういふため。

- 相手の心と自分の心はちがう。でも相手の気持ちもわかる。
- 自分も大切にしたい。相手も大切
- 誰かへ伝えるのが大切
- 思いこみは相手をききつけてる
- DVは暴力だけじゃなくて言葉の暴力。あしもある(無理やりおしつけるのも)
- 問題が起きたら、一人でやまない。近くの信用できる大人、警察にそうたふする

やめて」と言ったり先生、親に言う人する

「いや、だめ、やめて」自分を守ることははにかしい  
ことではない。自分、相手、大切。いやなことをいやという  
ゆきもった。たしい情報。きりかん。考える。おきなや  
体のきりかん、心のきりかん、自分・相手のきりかん

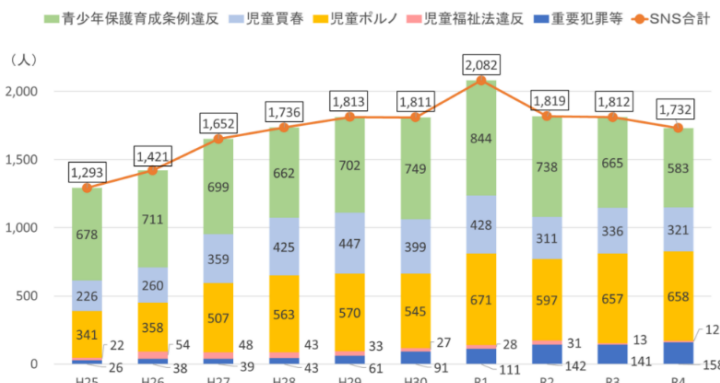
自分は守る。正しいいようほうをえうから。  
SNSのいようをえうしてみる。  
しんらいの大人にそうたふしてみる。  
互いにぶこづによっておそくする。  
すべてが正しいいようほうではない。

自分を守ることははにかしいことではない  
自分、相手、大切にする  
いやなことはことある  
きり感を考える  
暴力をゆるさない  
これかひかいいにあわないために大切なこと  
スマートフォンも使い方をまちかえるとあが  
ないものになる  
さへつをしない

子どもたちが性犯罪の被害に遭う機会が増加している現状・課題を受け、政府は、「性犯罪・性暴力対策の強化の方針(R2.6)」「性犯罪・性暴力対策の更なる強化の方針(R5.3)」「(性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省)を掲げました。

方針の取組の一つにある、【学校における生命(いのち)の安全教育推進事業】を受け、日光小学校では、6年生を対象に市健康課との連携のもと授業実践を図りました。

SNSに起因する事犯に係る罪種別の被害児童数の推移



令和4年におけるSNSに起因する事犯の被害児童数は、1,732人であり、前年からは4.4%減少したものの、おおむね横ばい状態であり、依然として高い水準で推移している。